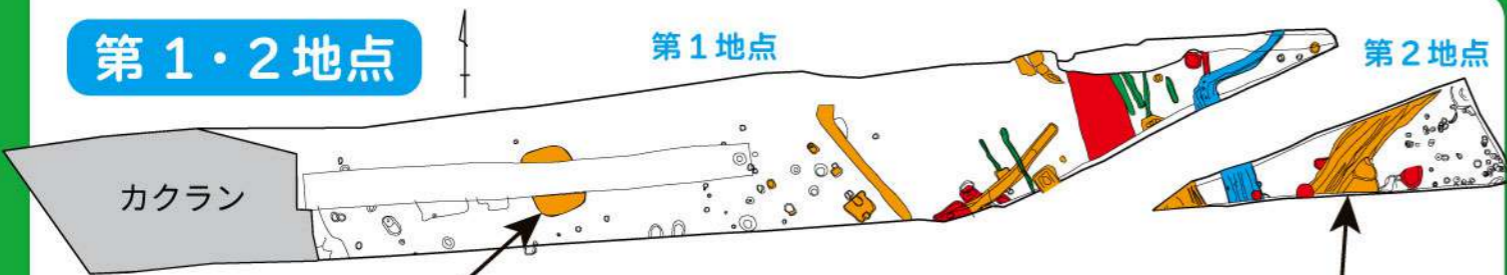


# 令和4・5年度の発掘調査範囲

# ごんげん 権現遺跡

## 第1・2地点



古墳時代前期の  
竪穴住居跡



古墳時代前期の  
溝跡から出土した  
大量の土器

古墳時代の竪穴住居跡や土壇、井戸跡、溝跡、奈良・平安時代の井戸跡、溝跡、中世の溝跡が見つかりました。

第1地点の古墳時代の方形土壇から、土師器の小型壺、高坏などがまとめて出土しました。また、第2地点の溝跡の上層から、大量の土師器の壺、器台、高坏、台付甕が発見されました。溝が埋まりきる前に土器を入れた意味については、これから探っていきます。

凡例	
<span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:orange;"></span>	古墳時代
<span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:red;"></span>	奈良・平安時代
<span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:blue;"></span>	中世(鎌倉時代 ～戦国時代)
<span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:green;"></span>	近世(江戸時代)

## 遺跡周辺の地形



令和5年度第4回 遺跡見学会資料 令和6年2月3日(土)

吉見町

# ごんげん 権現遺跡(第2次) にのこうち 二ノ耕地遺跡(第3次)



権現遺跡と二ノ耕地遺跡は、西を流れる市野川と東を流れる荒川に挟まれた自然堤防上に立地しています。権現遺跡第2次調査(第1・2地点)では古墳時代から中世の遺構と遺物、二ノ耕地遺跡第3次調査(第3・4地点)では古墳時代の方形周溝墓と奈良・平安時代の掘立柱建物跡が見つかりました。これらは、吉見町の歴史を紐解く上で貴重な発見です。

主催

埼玉県教育委員会  
(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

後援

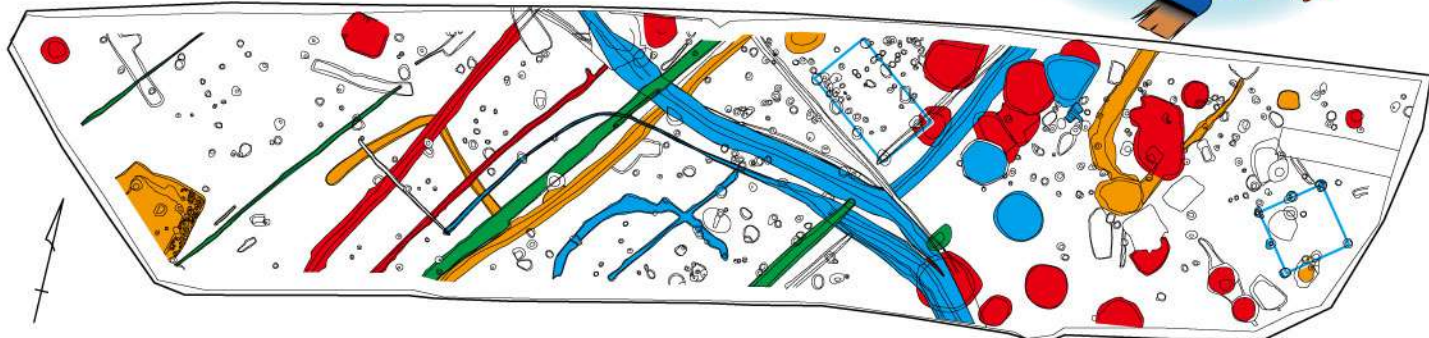
吉見町教育委員会



令和4年度の発掘調査成果

令和5年度の発掘調査成果

第1地点

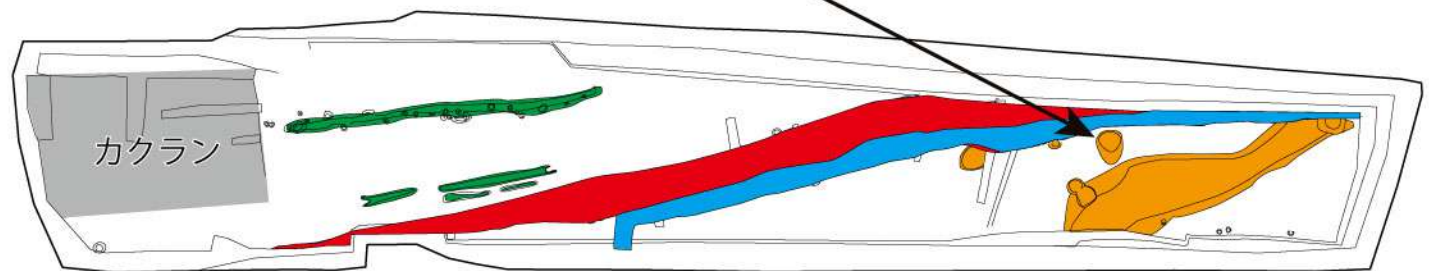


- 凡例
- 古墳時代
  - 奈良・平安時代
  - 中世（鎌倉時代～戦国時代）
  - 近世（江戸時代）

古墳時代の<sup>たてあなじゅうきよあと</sup>竪穴住居跡、奈良・平安時代の<sup>たてあなじょういこう</sup>竪穴状遺構、中世の掘立柱建物跡、柵跡と火葬跡のほか、近世までの<sup>どこう</sup>土壌、井戸跡、溝跡などが見つかりました。

中世の溝跡の底から馬の頭骨、井戸跡から<sup>とこなめやき</sup>常滑焼の甕・壺、<sup>かめ</sup>渥美焼の甕、<sup>つぼ</sup>かわらけの皿など、国内産の陶器や土器が出土しました。また、中国で生産された<sup>わん</sup>青磁の碗、朝鮮半島で生産された、あまり例のない<sup>こうらいせいじ</sup>高麗青磁の碗なども発見されました。

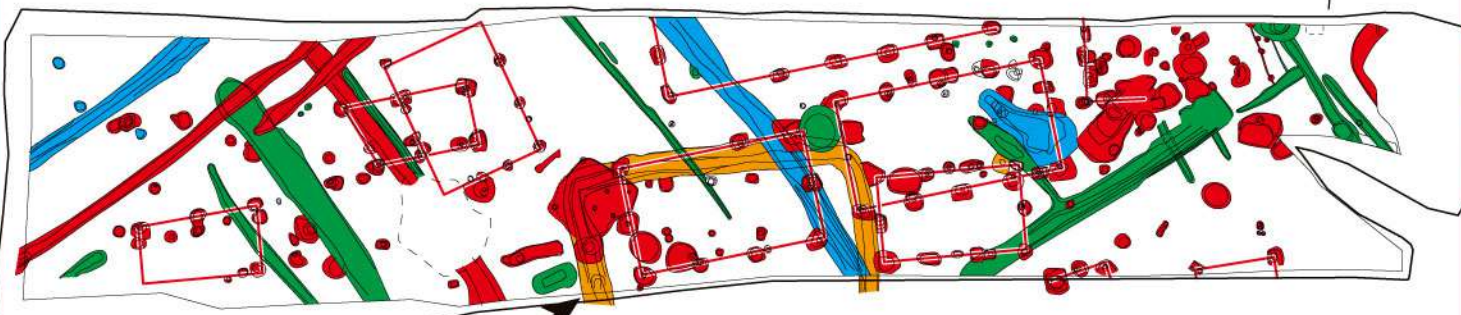
第2地点



古墳時代前期の井戸跡のほか、古墳時代から近世までの土壌や溝跡が見つかりました。

古墳時代前期の井戸跡はあまり例がありません。このうちの1基では、上方から土師器の壺・台付甕、中ほどから<sup>またくわ</sup>又鍬や<sup>きね</sup>杵などの木製品類、底から<sup>ひょうたん</sup>瓢箪に形がよく似た<sup>ひさごつぼ</sup>瓢壺が出土しました。上中下と意図的に種類が分けられた理由は、これから検討していきます。

第3地点



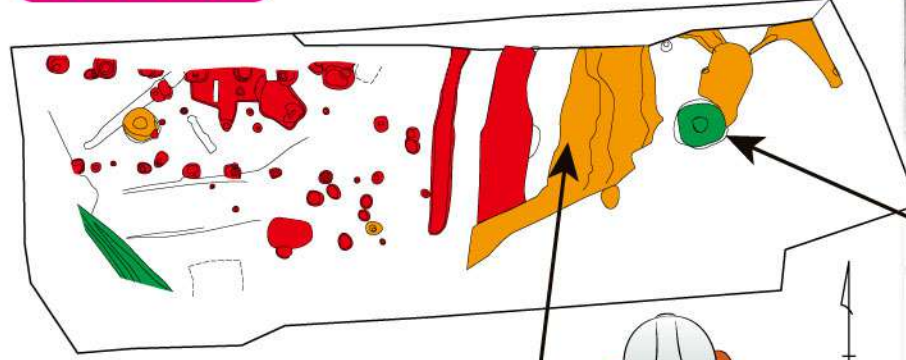
方形周溝墓出土の壺

古墳時代の方形周溝墓、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や溝跡、中世の土壌や井戸跡、近世の土壌や井戸跡、溝跡が見つかりました。

方形周溝墓とは溝を方形に巡らせて区画し、溝を掘った土を内側に盛って、この盛土部分に遺体を埋葬したお墓です。今回の調査では、埋葬施設は確認できませんでした。溝の中から、土師器の壺、器台、高坏、台付甕などが出土しました。

掘立柱建物跡は、建物の柱の根本を埋めた柱穴が規則的に並んでいます。建物跡の重なりや方向の違いなどから、数時期に分かれて建てられたようです。

第4地点



江戸時代の井戸跡



古墳時代前期の壺（口縁部）

古墳時代の土壌や溝跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、溝跡、中世の溝跡、近世の井戸跡が見つかりました。

古墳時代の溝跡から、口縁部（器の口の部分）に<sup>ぼう</sup>棒状浮文という文様が付いた土師器の二重口縁壺が出土しました。また近世の井戸跡には、<sup>おけ</sup>桶が三段に重ねられて井戸枠に転用されていました。